

七十苅遺跡の埋蔵文化財調査による

成果を報告

只見町教育委員会では、河川改修工事に七十苅遺跡（小林地区）がかかるため、4151㎡の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。平成22年度から23年度に行なった、2カ年の調査成果について、総括して報告します。

七十苅遺跡について

七十苅遺跡は昭和40年代に、土器に粉が付着した「粉痕土器」が採取された遺跡で、その土器が弥生時代前期（2500年前）のものだと推定されたことにより、只見町でも弥生時代の初め頃には稲作が浸透していたことが分かった大変貴重な遺跡です。現在、粉痕土器は、福島県立博物館（会津若松市）に保存展示されています。

発見された遺構

2カ年の調査で発見された遺構は縄文時代から弥生時代・中世以降など次のとおりです。

- ▽ 竪穴状遺構 3基
- ▽ 掘立柱建物跡 1棟
- ▽ 土抗 44基
- ▽ ピット（柱跡） 154基
- ▽ 溝跡 1条
- ▽ 河川跡 5条
- ▽ 性格不明遺構 6基

発見された遺構の中から、いくつか紹介します。

竪穴状遺構【写真①～⑤】

竪穴住居跡に非常によく似た痕跡を3基発見しています。竪穴住居跡としなかった理由は、カマドが不明確で、屋根を支えるための柱跡がほとんど発見されなかったため住居跡とするには決定力に欠ける痕跡だったためです。しかし、1号竪穴状遺構については、中心に土器が潰れた状態で発見され、近くに打製石斧などが6点発見されているため、人がなんらかの形で居住していたことを示していると考えられます。1号竪穴状遺構については、縄文時代晩期から弥生時代初頭の年代が推測されます。2号、3号竪穴状遺構は、時期は不明ですが、同じくらいの時期と考えられます。



▲1号竪穴状遺構検出状況



▲1号竪穴状遺構完掘状況



▲1号竪穴状遺構出土遺物(深鉢)【縄文時代晩期～弥生時代初頭】



▲1号竪穴状遺構出土遺物(深鉢)【縄文時代晩期～弥生時代初頭】



▲1号竪穴状遺構出土遺物(打製石斧)

掘立柱建物跡

昨年度の報告で紹介しましたが、南北2間×東西5間の建物跡で、北側に庇（縁側）がつく建物跡です。南側には、3号河川跡（旧伊南川の流路跡）があり、河川に関係する漁場的な施設の可能性が考えられます。また、建物跡の柱跡には、大量の炭が混入していることから火災により焼失している可能性が高いです。出土した遺物がないため、建物跡の時期は不明ですが、柱跡の形から中世以降の建物跡と推測しています。

柱列

5列の柱列を確認しています。掘立柱建物跡の南西側の3列の柱跡は、非常に残りがよく、はっきりと柱列であることがわかります。柱跡の土から、鉄釘などが出土しました。また、柱間の間がとて狭いため、柱列というよりは作物や植物に関係するものではないかと考えています。

土抗【写真⑥～⑪】

昨年度は20基の土抗を確認しましたが、今年度新たに24基の土抗を確認しています。その中でも、4号土抗からは、羽状縄

文（羽状の縄目を施す土器）が出土しています。縄文時代後期の土抗と推定しています。また、20号土抗や21号土抗は、非常によく残されていました。遺物は、弥生時代の遺物が確認されましたが、痕跡や穴の形状からすると、掘立柱建物跡と同時期の可能性が高いと推測されます。

43号土抗からは、縄文時代中期の遺物が発見されています。この土器は、アルファベットのU字の文様が描かれている土器で、縄文時代中期頃の遺物と考えられています。



▲4号土坑出土遺物（深鉢）【縄文時代後期】



▲1号土坑完掘状況



▲43号土坑半裁状況



▲1号土坑出土遺物（深鉢）【縄文時代晩期】



▲43号土坑出土遺物（深鉢）【縄文時代中期】



▲4号土坑完掘状況

河川跡【写真⑫～⑳】

今回の調査で、七十苅遺跡の大部分が旧河川跡であることがわかりました。最も古い河川が5号河川跡で、縄文時代後期から縄文時代晩期の遺構です。この河川は、伊南川の旧流路跡と考えられます。次に古いものは、2号河川跡です。これについても縄文時代後期から弥生時代中期と考えられます。2号河川跡は、現在、明和小学校の裏から流れ、調査区の東側を流れる白沢が関係していると推定され、広い年代幅で遺物が出土する事がわかりました。その他の河川跡は比較的新しいと考えられ、現在の伊南川とほぼ同じ流れです。1号河川跡↓3号河川跡↓4号河川跡の方向に向かい流れていたと考えられます。



▲2号河川跡出土遺物(壺)【弥生時代中期】



▲2号河川跡出土遺物(独鉢石)



▲2号河川跡完掘状況(東区)



▲5号河川跡完掘状況



▲3号河川跡完掘状況



▲2号河川跡出土遺物(鉢か壺)【縄文時代後期】



▲5号河川跡出土遺物(鉢)【弥生時代前期】



▲3号河川跡出土遺物(蓋)【弥生時代】



▲2号河川跡出土遺物(深鉢)【縄文時代晩期】



▲5号河川跡出土遺物(壺)【弥生時代前期】



▲4号河川跡完掘状況



▲2号河川跡出土遺物(壺)【弥生時代前期】



▲2号河川跡完掘状況(西区)

出土した遺物

只見町で最も

古い土器の発見【写真②⑤】

縄文時代中期以前の土器は見つかっていませんでしたが、七十苜遺跡から縄文時代前期と考えられる遺物が発見されました。この土器は、会津美里町（旧会津高田町）の冑宮西（かぶとみやにし）遺跡によく似た遺物が確認されています。

◇ポイント◇

只見町では、もっとも古い遺物が出土している遺跡は、旧石器時代の蒲生^㉔遺跡（蒲生）、猿倉遺跡（塩沢）から石器が発見されています。



②⑤

▲縄文時代前期（深鉢）

黒曜石の発見【写真②⑥】

平成23年度の調査で10cm大の黒曜石が出土しました。窪田遺跡からも黒曜石は出土していますが、詳しい科学分析は行っていません。今回七十苜遺跡で発見された黒曜石は、産地調査のため、分析を行いました。その結果、七十苜遺跡の黒曜石は、栃木県高原山産（栃木県矢板市と那須塩原市の間にある山）の黒曜石であることがわかりました。縄文時代が弥生時代になんらかの交流があったことを示していると考えられます。また、新潟県で発見されている黒曜石にも高原山産のものがあり、只見町経由で新潟県に運搬された可能性も考えられます。これについては、他の遺跡で、さらに分析する点数を増やし、調べる必要があります。



②⑥

▲出土した黒曜石（石核）

古墳時代の遺物の発見

【写真②⑦～②⑧】

只見町には、古墳が確認されていません。古墳時代の遺跡も発見されていないにも関わらず、七十苜遺跡から古墳時代の土器が発見されました。この土器は、土師器（はじき）と呼ばれ、坏（いわゆるお椀）と甕が発見されました。昨年度から調査を行ってきましたが、会津盆地などからの出土例から、おおよそ5世紀から6世紀頃のものと同推測されます。



②⑦

▲古墳時代中期（土師器 甕）



②⑧

▲古墳時代中期（土師器 坏）

七十苜遺跡の稲作の可能性について

七十苜遺跡から発見された粘土器について調べるため、土壌の花粉化石の分析を行いました。花粉化石は、砂っぽい土壌には残りにくく、粘性の若干強い土だと土壌に残る可能性が高いです。また、土に分解され、残らない場合もあります。この分析を七十苜遺跡で試みましたが、思った結果は得られず、残念ながら、七十苜遺跡の稲作に関する情報は得られませんでした。

おわりに

七十苜遺跡の発掘調査は、河川改修工事に伴い実施してまいりましたが、平成23年度で発掘調査事業は終了しました。七十苜遺跡の全容を解明するには至りませんが、伊南川の河川が今より北側に流れていたことがわかりました。調査した地点の北側には、集落跡があることを想像させます。また、古墳時代の遺物が出土したことにより、古墳時代の遺跡が只見町にある可能性も出てきました。今後、歴史的発見があるかもしれません。

最後になりましたが、七十苜遺跡の調査にご協力いただきました町民の方々および町内各業者の方々にお礼を申し上げ、調査結果の報告いたします。

Information

各写真枠のカラーと6～7ページの全景写真にある説明項目の文字のカラーをあわせて見ていただくと、どの場所で発見されたかなど、位置の確認ができます。



至小林

1号土坑

27

2号河川跡

2号河川跡

28

4号土坑

号土坑

3号竖穴状遺構

1号掘立柱建物跡

1号河川跡

柱列

3号河川跡

中の橋

伊南川

至三軒在家

七十苻遺跡の全景

【平成22年度～平成23年度調査地】



1号 縦穴状遺構

5号 河川跡

4号 河川跡

5号 性格不明遺構

26

25

43

2号 縦穴状遺構

6号 性格不明遺構

20号 土坑

21号 土坑

七十苻遺跡発掘調査歴

平成20年度	11月17日～11月28日	(試掘調査)
平成21年度	8月21日～9月14日	(試掘調査)
平成22年度	6月14日～12月14日	(本発掘調査)
	12月15日～3月31日	(整理作業)
平成23年度	5月2日～10月31日	(本発掘調査)
	11月1日～2月29日	(整理作業)

